

## 広島原爆被爆者福祉センター開設50周年記念式典開催 於：広島国際会議場



広島原爆被爆者開設 50 周年記念式典の開会を宣言する長崎副会長

平成 23 年 4 月 25 日、被爆者の健康管理や援護事業の拠点として建設された広島原爆被爆者福祉センター（以下、「原爆センター」という。）は、開設から 50 年の節目を迎えた。それを記念し、平成 23 年 9 月 19 日、広島国際会議場ダリアにおいて「広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念式典」を開催

した。

岸田文雄衆議院議員、高城 亮厚生労働省健康局長代理、佐々木昌弘広島県知事代理、松井一實広島市長、碓井静照広島県医師会会長を来賓に迎え、関係機関からも多数出席いただき、役職員を含め 200 名近い参加者を得て、盛大に挙行された。

本号の内容	1 広島原爆被爆者福祉センター開設50周年記念式典開催	……1	5 国の被爆者二世健康診断実施	……13
	2 平成22年度事業報告・決算承認	……6	6 健康科学館 企画展のごあんない	……13
	3 第52回原子爆弾後障害研究会	……12	7 行事と会議	……13
	4 寄附受領	……12	8 人事	……14
			9 来館者	……14

### 記念事業実施にあたって

本年は、広島原爆被爆者福祉センター開設から50周年の節目の年に当たる。そこで本会では、開設後の原爆センターの歩みを振り返るとともに、あらためて被爆者をはじめとする市民の健康維持・増進に寄与し、新たなる歴史の創造に向かって努力するというメッセージを発信することを目的として、記念事業を実施することとした。



記念事業の実施にあたっては、本会の古川義紀常務理事を委員長とする実行委員会を設置して事業内容などの検討を行い、常務理事会の決定を経て、記念式及び祝賀会を9月19日に開催することや、記念式典の開催に合わせ、記念映像の制作と記念誌の発刊を行うこととなった。

### 記念映像の上映

開式の辞に先立ち、記念映像「ひろしまのいのちと健康をみつめて」が上映された。この映像は、原爆センターの50年のあゆみを振り返るといったコンセプトのもと、被爆直後の広島の様子から原対協創設に至る経緯や原爆センターの設立、その後の活動について当時の貴重な資料や写真、中国新聞掲載記事を交えつつ、広島と広島市民の歴史をリンクさせながら紹介したものである。



記念映像上映風景

原爆センター50年の歴史をわずか10分程度の短い映像で振り返るといった試みにより、原対協及び原爆センターの活動が与えた社会的影響や原爆センターの存在価値を、式典出席者の方々により強く訴えることができたのではないだろうか。

### 真田会長による式辞

記念映像の上映後、長崎孝太郎副会長の開式の挨拶に続いて、主催者を代表して真田幸三会長が式辞を述べた。来賓や出席者へのお礼の言葉の後、「原対協及び原爆センターの歴史を振り返ると、広島市、広島市医師会そして原対協の三者が常に密接に連携を持ち、お互いを尊重しながら歩んできた相互扶助の関係を改めて認識させられる」と述べ、また、原対協及び原爆センターの発展は、広島市や広島市医師会のみならず、広島大学や国・県など関係各位の支援や先輩諸氏の尽力の賜物であると感謝の意を表した。そして、今後も被爆者をはじめとする市民の健康管理・健康増進をより一層推進し、原対協の新たな発展のために努めていくという決意を述べた。



式辞を述べる真田会長

### 功労者表彰

次に、功労者表彰が行われた。原対協及び原爆センターの運営に尽力された歴代の役員・所長の中から被表彰者を選出することとなり、原爆センターを健康管理の殿堂にと情熱を燃やした原対協の発展期から広島市総合健康センターの開設、その後の成熟期にかけて長きにわたり功績のあった方々として、伊達昌英元常務理事、落久保幸夫元常務理事、伊藤千賀子前所長の3名が選出された。

真田会長から表彰状と記念のクリスタルが贈呈された後、受賞者を代表して伊達昌英元常務理事から受賞に対する喜びの言葉が述べられた。また、広島原発事故に触れ、これまで原爆センターが集めてきた健康管理の記録を役立ててもらいたいと話された。



功労者(左から、伊達昌英元常務理事、落久保幸夫元常務理事、伊藤千賀子前所長)

### 永年勤続表彰

功労者表彰に続いて、永年勤続者表彰が行われた。本会では、毎年勤続年数が15年・25年に該当する職員に対し、永年勤続表彰が行われている。今年度は、25年勤続者3名、15年勤続者1名の合計4名が紹介され、真田会長から表彰状と記念品として旅行券が授与された。今年度の被表彰者は、以下のとおりである。

＝25年被表彰者(3名)＝

総務課主幹	面迫敏朗
総務課副主任	有定久雄
検査科副主任	湯川光江

＝15年被表彰者(1名)＝

放射線科主任技師	池田亜衣
----------	------



真田会長から表彰状及び記念品を授与

### 来賓祝辞

続いて、お忙しいところ記念式典にご出席いただいた5名の来賓の方々から祝辞をいただいた。今回このように開設50周年という節目にふさわしい式典となったのも、岸田文雄衆議院議員、高木亮厚生労働省健康局長代理、佐々木昌弘広島県知事代理、松井一實広島市長、碓井静照広島県医師会長というそうそうたる顔ぶれが揃い、ともに原爆センターの開設50周年を祝っていただいたおかげであると、主催者一同感謝の意にたえない。

#### ～来賓紹介～

衆議員議員  
岸田文雄様(上段右)  
厚生労働省健康局長代理  
高城亮様(中段左)  
広島県知事代理  
佐々木昌弘様(中段右)  
広島市長  
松井一實様(下段左)  
広島県医師会長  
碓井静照様(下段右)



### 特別講演

来賓祝辞の後、真田幸三会長による特別講演が行われた。本会の沢近紀夫常務理事が座長を務め、司会者から進行を引き継いだ。座長により演者である真田会長の紹介が行われた後、「原爆物語～戦争の悲惨さと原子力(核)の恐ろしさ～」と題して、約50分にわたり原爆投下の歴史的経緯や戦争の悲惨さ、

原子力の問題について講演した。また、福島原発事故にも触れ、「この事故は、日本の原子力政策についての反省と今後のエネルギー問題についての変更を求めるものであり、原子力に依存しない社会をつくり人間がいつまでも地球上で生存できる環境に戻すことが問われている。」と訴え講演を締めくくった。



特別講演風景（壇上左…演者：真田会長、壇上右…座長：沢近常務理事）

### 閉式の辞

最後に、古川義紀常務理事が「被爆者をはじめ、私たちをとりまく環境は大きく移り変わっていますが、これからも皆様のご指導・ご鞭撻をいただきながら、原爆センターそして原対協の更なる発展を願います。」と閉式の辞を述べ、原爆センターの開設50周年記念式典は滞りなく終了した。



閉式の辞を述べる古川常務理事

### 祝賀会の開催

17時からは、会場をヒマワリに移し、記念祝賀会が催された。式典に引き続き、多くの方々が出席した。真田会長の開会挨拶の後、林 正夫広島県議会議長による乾杯のご発声により、50周年を寿ぐ祝宴が和やかに開会した。



林 正夫広島県議会議長による乾杯のご発声

歓談の途中、アトラクションとして、フルートとピアノのユニット“K.amare”の森重 桂、中矢九喜子両名による被爆ピアノとフルートの演奏が行われた。秋にちなんだ音楽など数曲が披露され、出席者は美しい音色に耳を傾けた。その後、宴もたけなわとなり、碓井静照副会長から閉会の挨拶がなされ、広島原爆被爆者福祉センター開設50周年記念式典並びに祝賀会は盛会裡に終了した。



被爆ピアノとフルートのデュオ

### 記念誌の刊行

原爆センターの活動を記録として後世に残すため、原爆センター開設50周年記念事業の一環として記念誌を刊行した。記念誌の前半部分は、巻頭の真田会長のごあいさつに続き、グラフ50と題し、原対協のあゆみを写真で紹介するページを設けた。次に、原爆センターを大きく創生期、発展期、成熟期の3つの時代に分け、写真入りの年表形式で流れに沿って活動内容を紹介するページが続く。後半部分は、現在の広島市総合健康センターの施設概要、事業内容、データ集の構成とし、原対協に対してより一層の理解を深めていただける内容とした。この記念誌

の発行に際し、古川義紀常務理事、伊藤千賀子前所長、荒田誠之助元常務理事へのインタビューを行い、コラムとして掲載した。おわりに、佐々木所長が「明日へ」と題し、今後の原対協の展望を述べ締めくくった。巻末には、これまでに刊行された事業概要、会報、原子爆弾後障害研究会講演集総索引のデータを収録したDVDを付録として添付した。

この記念誌は、記念式典当日、出席者全員に配布された。また、一般市民を対象とした内容に仕上がっているため、ひろく市民の皆様にご覧いただけるようにと、式典終了後、広島市内の小・中学校、図書館、公民館へ寄贈した。この資料が、単に原対

協の活動を紹介するという役割だけにとどまらず、平和教育の中で役立ててもらえれば幸いである。



広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念誌「これまでも、これからも」

### 広島原爆被爆者福祉センター開設 50 周年記念式典並びに記念祝賀会 開設記念式典次第

日時 平成 23 年 9 月 19 日 (月・祝) 15 : 00 ~  
場所 広島国際会議場 ダリア

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 記念映像   | ～広島のいのちと健康をみつめて～   |
| 2. 開式の辞   | 長崎孝太郎 (財団法人広島原爆障害対策協議会副会長)   |
| 3. 式辞     | 真田幸三 (財団法人広島原爆障害対策協議会長)  |
| 4. 功労者表彰  | 財団法人広島原爆障害対策協議会<br>元常務理事 伊達昌英 様<br>元常務理事 落久保幸夫 様<br>健康管理・増進センター前所長 伊藤千賀子 様                   |
| 5. 被表彰者挨拶 | 財団法人広島原爆障害対策協議会元常務理事 伊達昌英様   |
| 6. 永年勤続表彰 | 25 年及び 15 年表彰  |
| 7. 祝辞     | 衆議員議員 岸田文雄 様<br>厚生労働省健康局長 代理 高城 亮 様<br>広島県知事 代理 佐々木昌弘 様<br>広島市長 松井一實 様<br>社団法人広島県医師会長 碓井静照 様 |
| 8. 特別講演   | 「原爆物語～戦争の悲惨さと原子力(核)の恐ろしさ～」<br>演者 真田幸三 (財団法人広島原爆障害対策協議会長)<br>座長 沢近紀夫 (財団法人広島原爆障害対策協議会常務理事)    |
| 9. 閉式の辞   | 古川義紀 (財団法人広島原爆障害対策協議会常務理事)   |

### 祝賀会次第

日時 平成 23 年 9 月 19 日 (月・祝) 17 : 00 ~  
場所 広島国際会議場 ヒマワリ

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| 1. 開会挨拶    | 真田幸三 (財団法人広島原爆障害対策協議会長)   |
| 2. 乾杯      | 広島県議会議長 林 正夫 様            |
| 3. アトラクション | 被爆ピアノとフルートの演奏             |
| 4. 閉会挨拶    | 碓井静照 (財団法人広島原爆障害対策協議会副会長) |

平成22年度 事業報告・決算承認  
—理事会・評議員会開催—



平成22年度の事業報告並びに決算について審議する理事会・評議員会を、5月26日午後1時30分から、広島市総合健康センター4階広島市医師会臨床検査センター会議室で開催し、審議の結果、原案どおり承認された。

承認されたおもな議案は次のとおりである。

第1号議案 平成22年度事業報告について

第2号議案 平成22年度決算について

第3号議案 平成23年度補正収支予算案について

第4号議案 新公益法人制度への対応について

(その2)

＝平成22年度事業報告(概要)＝

I 被爆者の健康管理事業

1 健康管理の推進—被爆者ががん検診を積極的に推進するとともに、被爆者の高齢化に伴う諸状況を考慮し、特に次の事項に重点をおいた取り組みを行った。

悪性新生物の早期発見／生活習慣病の早期発見と指導

2 健康診断医療機器の整備—全自動電気泳動装置更新整備(年賀寄附金配分による)／FPDデジタルX線透視撮影装置更新整備／超音波画像診断装置更新整備／血糖値・HbA1c測定連結分析装置更新整備

3 被爆者健康管理資料の整備—受診者に関する資料の分類整理・保存(X線画像は医用画像管理システムへ収録、心電図はハードディスク・光ディ

スクへ収録)／健康診断実績・結果の諸統計の作成・保管

II 被爆者の健康管理に関する調査研究事業

1 調査研究の実施

- ・「被爆者がん検診の意義に関する研究」(継続)
- ・「被曝と悪性腫瘍発生に関する研究」(継続)
- ・「被爆者の糖代謝に関する研究」(継続)
- ・「肺がんに関する研究」(継続)
- ・「加齢に関する研究」(継続)

これらの調査研究の成果は、「原子爆弾後障害研究会」等関係学会に32題を発表したほか、随時医学雑誌、会報その他機関紙に掲載した。

2 文献の収集—原爆関係図書「被爆者のあかし紙碑 第6集」ほか4篇を収集

3 第51回原子爆弾後障害研究会の開催への協力—6月6日、長崎原爆資料館において開催された。特別講演、シンポジウムのほか一般演題37題が発表された。本会関係者は、シンポジウム1題、一般演題2題を発表した。

<シンポジウム—被爆者検診の現状>

「被爆者検診の現状と課題」 佐々木英夫

<一般演題>

「被爆者における大腸がん検診成績(第7報)」

平岡佐知子ほか

「被爆者健康診断におけるC型肝炎検査についての検討」 吉良さくらほか

Ⅲ 被爆者の援護福祉事業

- 1 被爆者相談の実施—被爆者の生活、健康及び医療についての相談に応じ、必要な指導及び援助を行った。(503件)
- 2 援護の実施—国・県・市の行政施策を補完し、「原爆被爆者援護規程」に基づき必要な援助を行い、被爆者の福祉の増進に努めた。(501件)
- 3 原爆被爆者有福温泉療養研究所の運営—原爆被爆者有福温泉療養研究所運営協議会(会長：江津市長)に運営を委託し、必要な支援を行い被爆者の福祉の増進を図った。

また、被爆者の高齢化等による利用者の減少により利用収入での運営が困難となったため、1,520万円の運営費を補助して、被爆者の温泉療養を実施した。(実人数 2,696人、延人数 8,600人、1日平均利用者数 23.8人)

Ⅳ 被爆者の健康診断事業

- 1 健康診断の実施—被爆者の健康管理の充実を期するため、健康診断体制の整備充実に努め、関係当局との連携のうえ受診率の向上を図った。  
適正な健診日数・健診会場の確保／日曜健診の実施による受診サービスの向上(32回、336人)／受診促進のための啓発活動／被爆者二世健診の実施(2,486人)

2 健康診断の実績

一般検査	25,619件
精密検査	27,113件
胃がん検診	4,515件
肺がん検診	11,708件
乳がん検診	2,686件
子宮がん検診	2,260件
多発性骨髄腫検診	17,352件
大腸がん検診	9,639件
骨粗鬆症検診	5,623件

Ⅴ 高齢者医療確保法等による健康診査事業

- 1 高齢者医療確保法に基づく健康診査の実施—広島市から委託を受けて実施し、市民の健康保持の推進に努めた。加えて、女性特有のがん検診推進事業として、広島市が発行する無料クーポン券を利用しての子宮頸がん・乳がん検診を実施した。

実施件数	特定健康診査	11,556件
	特定保健指導	39件
	胃がん検診	17,153件
	肺がん検診	18,905件
	乳がん検診	10,027件
	子宮がん検診	9,793件
	大腸がん検診	10,087件
	骨粗鬆症検診	2,072件
	C型B型肝炎ウイルス検査	107件

2 感染症予防法に基づく健康診断の実施

実施件数 11,387件

3 後期高齢者に対する健康診査の実施

実施件数 2,645件

4 介護保険法に基づく生活機能評価の実施

実施件数	被爆者	15,006件
	被爆者以外	8,568件

5 健康管理資料の整備—受診者に関する健診資料の整理保管

Ⅵ 広島市健康づくりセンターの管理運営事業

- 1 広島市から指定管理者の指定を受けて、広島市健康づくりセンターの施設の維持管理を行った。
- 2 健康増進事業—健診による健康度のチェック及び体力測定・運動負荷テスト・栄養調査等を実施し、受診者一人ひとりに適した運動や生活における適正なプログラムを作るとともに、それに基づく運動・栄養等の指導を行うことにより、市民の健康の維持・増進を助長した。

実施件数	基本コース	86件
	簡易メニュー	716件
	精密コース	1,579件
	効果測定メニュー	73件

- 3 健康教育事業—健康に関する最新情報をわかりやすく正確に提供するとともに、積極的に教育研修を実施し、日常における健康管理について啓発を図った。

- ① 健康科学展示施設の運営—年間利用者 45,486人／企画展—「足にまつわる健康展 今・昔」(84日間、観覧者 7,091人)／「わたしたちのからだアラカルト」(83日間、観覧者 9,747人)／「ふしぎ!おもしろ!お口の魅力大発見」(87日間、観覧者 5,225人)／「㊦と㊧

の物語」(28日間、観覧者2,109人)

- ② パネル展一年12回
  - ③ 健康ライブラリーの運営—健康に関する最新情報の提供
  - ④ 健康に関する教育研修の実施—健康科学館主催による研修会・イベント年53回、参加者1,744人／パパとママの育児教室 年34回、参加者1,970人／他の関係機関との共催による研修会 年52回、参加者2,444人
  - ⑤ ボランティア（ヘルスサポーター）の育成・活動事業—養成講座 年1回（6課程）、育成講座 年7回／活動事業 年520回
  - ⑥ 広報活動(TV・ラジオ取材等)—96回
  - ⑦ 展示物・資料等貸出—18回
- 4 ファミリー・サポート・センターの運営—会員同士の子育てに関する相互援助活動を行うことにより、仕事と子育ての両立支援や地域における子育て支援機能の充実を図った。
- ① 会員組織の管理運営（会員数2,538人）
  - ② 援助活動の調整・マッチング（828件）
  - ③ 提供会員講習会（年2回）
  - ④ 会員同士の交流会（年9回）
  - ⑤ 会員講習会（年22回）
  - ⑥ 機関誌の発行（年1回）
- 5 つどいの広場の運営—子育て家庭の親と子供が気軽につどい、育児相談などを行う常設の場を提供し、子育ての負担感の緩和や子育て支援の充実を図った。（利用者数20,251人）
- ① 常設のつどいの場の提供
  - ② 子育てに関する相談援助
  - ③ 子育て関連情報の提供
  - ④ 子育て等に関する講習会の開催（年48回）

## VII 放射線被曝者医療の国際協力事業への協力

- 1 放射線被曝者医療国際協力推進協議会への協力—「放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)」の主要推進団体として協力し、外国からの医師等の受入れ(34人)及び研修方法、被曝者医療情報の調査・検討を行った。
- 2 来日被曝者の健康診断・医療相談等の実施—国外に居住する被曝者が来日の際、健康診断及び医療相談等を実施するとともに、被曝者健康手帳の

取得に必要な手続きの相談に応じるなど、在外被曝者への支援を行った。

## VIII その他目的達成に必要な事業

- 1 被曝者または市民の健診の結果、悪性疾患等が疑われた場合、確定診断や病期判定のために詳細な検査(CT・MRI・内視鏡検査・超音波検査等)を行い、治療が必要な場合には、外部医療機関等との連携により最善の方策を進めた。
- 2 広島市医師会との協力の下、事業所・個人からの依頼による人間ドック検診、事業所健診、生活習慣病予防健診等の健診を行うとともに、広島市医師会との連携により、医師会員からの依頼によるCT・MRI検査等の検査を行い、積極的に外部医療機関との協力を推進した。

## =新公益法人制度への対応について=

第4号議案として、新公益法人制度への対応について、資料に基づき、木下事務局長が詳細に説明を行った。議長(真田会長)が、新公益法人制度に的確に対応すべく、平成23年度中に公益認定申請を行い、平成24年度における公益財団法人への移行を図るため作業を進めており、最初の評議員の選出を行った旨を説明し、今後のスケジュール、定款変更の案、役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程(案)等について諮り賛否を求めたところ、全員異議なく原案どおり承認された。



＝平成22年度決算報告＝

正味財産増減計算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:円)

科 目	一 般 会 計	健 康 管 理 センター会計	被 爆 者 援 護 福祉事業会計	健 康 増 進 ・ 教育事業会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>						
<b>1. 経常増減の部</b>						
<b>(1) 経常収益</b>						
基本財産運用益	240					240
特定資産運用益	489,411	8,121,449				8,610,860
被爆者健康診断収益		619,469,561				619,469,561
健康増進法検診収益		292,181,804				292,181,804
特定健診・保健指導収益		111,272,392				111,272,392
介護保険法生活機能評価収益		40,801,395				40,801,395
結核住民健康診断収益		20,694,662				20,694,662
健康増進収益		8,962,626				8,962,626
受託収益				147,172,523		147,172,523
利用料収益				2,527,920		2,527,920
診療収益		214,774,290				214,774,290
その他健診等収益		139,487,797				139,487,797
受取補助金等		1,968,304				1,968,304
受取寄付金	830,000					830,000
雑収益	196,513	3,060,940				3,257,453
他会計からの繰入額	205,747,232		17,440,000		△ 223,187,232	-
<b>経常収益計</b>	<b>207,263,396</b>	<b>1,460,795,220</b>	<b>17,440,000</b>	<b>149,700,443</b>	<b>△ 223,187,232</b>	<b>1,612,011,827</b>
<b>(2) 経常費用</b>						
生活相談費	4,148,739					4,148,739
資料統計費	18,127,284					18,127,284
健康診断費		1,140,069,573				1,140,069,573
調査研究費	1,707,820	2,069,486				3,777,306
後障害研究会開催費						0
原爆被爆者対策費			17,440,000			17,440,000
健康増進費				71,859,341		71,859,341
健康教育費				63,361,207		63,361,207
ファミリーサポート・つどいの広場費				14,479,895		14,479,895
管理費	165,974,425	196,337,458				362,311,883
他会計への繰出額	17,440,000	205,747,232			△ 223,187,232	-
<b>経常費用計</b>	<b>207,398,268</b>	<b>1,544,223,749</b>	<b>17,440,000</b>	<b>149,700,443</b>	<b>△ 223,187,232</b>	<b>1,695,575,228</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>△ 134,872</b>	<b>△ 83,428,529</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 83,563,401</b>
<b>2. 経常外増減の部</b>						
<b>(1) 経常外収益</b>						
<b>経常外収益計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>(2) 経常外費用</b>						
除却損失	26,119	2,590,115				2,616,234
<b>経常外費用計</b>	<b>26,119</b>	<b>2,590,115</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2,616,234</b>
<b>当期経常外増減額</b>	<b>△ 26,119</b>	<b>△ 2,590,115</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 2,616,234</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>△ 160,991</b>	<b>△ 86,018,644</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 86,179,635</b>
<b>一般正味財産期首残高</b>	<b>25,590,051</b>	<b>1,505,022,241</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,530,612,292</b>
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>25,429,060</b>	<b>1,419,003,597</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,444,432,657</b>
<b>II 指定正味財産増減の部</b>						
受取補助金等		4,028,235				4,028,235
受取寄付金	813,080					813,080
一般正味財産への振替額	△ 830,000	△ 1,968,304				△ 2,798,304
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>△ 16,920</b>	<b>2,059,931</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2,043,011</b>
<b>指定正味財産期首残高</b>	<b>1,030,000</b>	<b>2,431,703</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3,461,703</b>
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>1,013,080</b>	<b>4,491,634</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5,504,714</b>
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>26,442,140</b>	<b>1,423,495,231</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,449,937,371</b>

貸借対照表総括表

平成23年3月31日 現在

（単位：円）

科目	一般会計	健康管理センター会計	被爆者援護福祉事業会計	健康増進・教育事業会計	合計
<b>I 資産の部</b>					
1. 流動資産					
現金預金	9,599,226	129,229,760		13,320,376	152,149,362
未収金	13,314	163,955,377			163,968,691
貯蔵品	93,976	17,500,525			17,594,501
流動資産合計	9,706,516	310,685,662	0	13,320,376	333,712,554
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産積立資産	200,000				200,000
基本財産合計	200,000	0	0	0	200,000
(2) 特定資産					
医療機械器具		38,613,235			38,613,235
医療機械器具減価償却累計額		△ 26,362,239			△ 26,362,239
退職給付引当資産	148,863,078	721,802,923			870,666,001
償却資産引当資産		1,005,232,424			1,005,232,424
寄附金資産	813,080				813,080
特定資産合計	149,676,158	1,739,286,343	0	0	1,888,962,501
(3) その他固定資産					
建物	59,516,000				59,516,000
建物減価償却累計額	△ 37,263,807				△ 37,263,807
車両運搬具		40,673,579			40,673,579
車両運搬具減価償却累計額		△ 34,926,390			△ 34,926,390
什器備品	12,409,635	87,295,006			99,704,641
什器備品減価償却累計額	△ 10,238,568	△ 77,146,749			△ 87,385,317
医療機械器具		1,090,252,874			1,090,252,874
医療機械器具減価償却累計額		△ 936,415,692			△ 936,415,692
リース資産		3,465,000			3,465,000
リース資産減価償却累計額		△ 1,386,000			△ 1,386,000
ソフトウェア	1,149,400	29,548,320			30,697,720
その他固定資産合計	25,572,660	201,359,948	0	0	226,932,608
固定資産合計	175,448,818	1,940,646,291	0	0	2,116,095,109
資産合計	185,155,334	2,251,331,953	0	13,320,376	2,449,807,663
<b>II 負債の部</b>					
1. 流動負債					
未払金	9,082,289	84,198,797		11,765,207	105,046,293
未払リース債務		693,000			693,000
未払消費税		7,826,600		1,075,900	8,902,500
未払法人税等		6,547,500			6,547,500
預り金	624,227	4,850,622		479,269	5,954,118
流動負債合計	9,706,516	104,116,519	0	13,320,376	127,143,411
2. 固定負債					
長期リース債務		1,386,000			1,386,000
退職給付引当金	149,006,678	722,334,203			871,340,881
固定負債合計	149,006,678	723,720,203	0	0	872,726,881
負債合計	158,713,194	827,836,722	0	13,320,376	999,870,292
<b>III 正味財産の部</b>					
1. 指定正味財産					
補助金		4,491,634			4,491,634
寄付金	1,013,080				1,013,080
指定正味財産合計	1,013,080	4,491,634	0	0	5,504,714
（うち基本財産への充当額）	( 200,000 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 200,000 )
（うち特定資産への充当額）	( 813,080 )	( 4,491,634 )	( 0 )	( 0 )	( 5,304,714 )
2. 一般正味財産	25,429,060	1,419,003,597	0	0	1,444,432,657
（うち基本財産への充当額）	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
（うち特定資産への充当額）	( 0 )	( 1,012,991,786 )	( 0 )	( 0 )	( 1,012,991,786 )
正味財産合計	26,442,140	1,423,495,231	0	0	1,449,937,371
負債及び正味財産合計	185,155,334	2,251,331,953	0	13,320,376	2,449,807,663

収 支 計 算 書 総 括 表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:円)

科 目	一 般 会 計	健 康 管 理 センター会計	被 爆 者 援 護 福祉事業会計	健 康 増 進・ 教育事業会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 事業活動収支の部</b>						
<b>1. 事業活動収入</b>						
①基本財産運用収入	240					240
②特定資産運用収入	488,911	7,834,723				8,323,634
③被爆者健康診断収入		619,469,561				619,469,561
④健康増進法検診収入		292,181,804				292,181,804
⑤特定健診・保健指導収入		111,272,392				111,272,392
⑥介護保険法生活機能評価収入		40,801,395				40,801,395
⑦結核住民健康診断収入		20,694,662				20,694,662
⑧健康増進収入		8,962,626				8,962,626
⑨受託収入				147,172,523		147,172,523
⑩利用料収入				2,527,920		2,527,920
⑪診療収入		214,774,290				214,774,290
⑫その他健診等収入		139,487,797				139,487,797
⑬補助金等収入		4,028,235				4,028,235
⑭寄附金収入	813,080					813,080
⑮雑収入	196,513	3,060,940				3,257,453
⑯他会計からの繰入金収入	205,747,232		17,440,000		△ 223,187,232	—
<b>事業活動収入計</b>	<b>207,245,976</b>	<b>1,462,568,425</b>	<b>17,440,000</b>	<b>149,700,443</b>	<b>△ 223,187,232</b>	<b>1,613,767,612</b>
<b>2. 事業活動支出</b>						
①生活相談費支出	4,148,739					4,148,739
②資料統計費支出	18,127,284					18,127,284
③健康診断費支出		1,140,069,573				1,140,069,573
④調査研究費支出	1,707,820	2,069,486				3,777,306
⑤後障害研究会開催費支出						0
⑥原爆被爆者対策費支出			17,440,000			17,440,000
⑦健康増進費支出				71,859,341		71,859,341
⑧健康教育費支出				63,361,207		63,361,207
⑨ファミリーサポート・つどいの広場費支出				14,479,895		14,479,895
⑩管理費支出	163,860,223	43,046,860				206,907,083
⑪他会計への繰入金支出	17,440,000	205,747,232			△ 223,187,232	—
<b>事業活動支出計</b>	<b>205,284,066</b>	<b>1,390,933,151</b>	<b>17,440,000</b>	<b>149,700,443</b>	<b>△ 223,187,232</b>	<b>1,540,170,428</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>1,961,910</b>	<b>71,635,274</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>73,597,184</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>						
<b>1. 投資活動収入</b>						
①特定資産取崩収入	830,000	91,469,486				92,299,486
<b>投資活動収入計</b>	<b>830,000</b>	<b>91,469,486</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>92,299,486</b>
<b>2. 投資活動支出</b>						
①特定資産取得支出	813,080	103,263,235				104,076,315
②固定資産取得支出	1,978,830	70,623,630				72,602,460
<b>投資活動支出計</b>	<b>2,791,910</b>	<b>173,886,865</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>176,678,775</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>△ 1,961,910</b>	<b>△ 82,417,379</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 84,379,289</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>						
<b>1. 財務活動収入</b>						
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>2. 財務活動支出</b>						
リース債務支出		693,000				693,000
<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>693,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>693,000</b>
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>△ 693,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 693,000</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>0</b>	<b>△ 11,475,105</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△ 11,475,105</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>218,737,248</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>218,737,248</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>207,262,143</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>207,262,143</b>

## 第52回原子爆弾後障害研究会

平成23年6月5日（日）、八丁堀シャンテにおいて第52回原子爆弾後障害研究会を開催した。

今回は、特別講演2題、シンポジウム4題、指定発言2題のほか、一般演題29題が発表され、本会からは一般演題3題を発表した。特別講演、シンポジウム及び本会関係者の発表演題は次のとおりである。

### ◎ 特別講演

1. 「広島・長崎、チェルノブイリ、JCO、そして広島原発 フォローアップにHICAREの活用を」  
広島赤十字・原爆病院長 土肥博雄
2. 「福島原子力発電所事故災害に学ぶ：我が国の緊急被ばく医療体制の現状と課題」  
広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
救急医学 教授 谷川攻一

### ◎ シンポジウム「後障害研究成果の世界への発信」

1. 「広島大学原爆放射線医科学研究所からの後障害研究成果の世界への発信」  
広島大学原爆放射線医科学研究所 所長 神谷研二
2. 「21世紀のヒバクシャ；長崎からの国際ヒバクシャ医療協力」  
広島県立医科大学 副学長 山下俊一
3. 「世界の放射線防護基準に使用される放射線リスクデータ」  
(財)放射線影響研究所 業務担当理事 寺本隆信

4. 「原爆被害関連情報—発信の歩みと今後の課題—」  
元広島大学原爆放射線医科学研究所 宇吹 暁

### ◎ 指定発言

1. 「放射線のリスクはどう報道され、受け止められたか～福島、チェルノブイリの原発事故報道から～」  
広島大学病院 特命広報・調査担当役 山内雅弥
2. 「広島平和記念資料館 展示の現状と更新計画」  
広島平和記念資料館 館長 前田耕一郎



### ◎ 本会関係者の発表演題（一般演題）

- ・被爆者肺がん検診成績  
精密健診科 医師 山下政代ほか
- ・原爆被爆者の循環器検診  
一心電図所見（心房細動）を中心に—  
健康増進科長 井上典子ほか
- ・被爆者における胃がん検診成績（第12報）  
精密健診科長 川西昌弘ほか

## 寄附受領



平成23年8月6日、日本高等学校教職員組合の方々が来所され、寄附を受領しました。

ご芳志ありがとうございました。

日高教組代表 佐藤執行委員長(右)へ  
感謝状を贈呈

## 国の被爆者二世健康診断実施

平成23年度の原爆被爆者二世の健康診断が、次の日程で開始された。この健康診断は、厚生労働省が広島県・広島市を通じて広島県内の各医療機関に委託して行うものである。

### 1 対象者

両親のいずれかが原子爆弾被爆者であり、次のいずれかに該当する広島県、広島市に居住する方

◎広島被爆にあつては昭和21年6月1日以降に生まれた方

◎長崎被爆にあつては昭和21年6月4日以降に

生まれた方

### 2 実施期間

平成23年6月13日(月)から

平成24年2月29日(水)まで

(ただし、精密検査は、

平成24年3月10日(土)まで)

原爆被爆者二世健康診断受診者数 (単位:人)

		平成21年度	平成22年度
国	広島市	2,286	2,213
	広島県	278	270

## 健康科学館企画展のご案内

### 企画展「のぞいてみよう！からだをまもる秘密」～がんばれ からだ マモンジャー!!～

ふだん私たちが生活している周りには様々な病原体がありますが、ありがたいことに私たちの身体は、状況に合わせて適切に対応して異物や細菌などの侵入を防ぎ、病気から身体を守る生体防御システムを備えています。

企画展では、免疫をはじめとする人間の身体の様々な「からだを守る」機能に注目し、からだ防衛隊“マモンジャー!!”の3人組が、皮膚や免疫細胞の働き、免疫力アップのための生活のヒントなどをパネルで紹介しています。

また、指から飛び出すミサイルで悪いウイルスをやっつける次世代型シューティングゲーム「PAC PAC (パクパク)」や、抗原と抗体をぴったり合わせる「抗原抗体パズル」など、楽しみながら学ぶ体験コーナーを設けています。動物が体を守る見本として、鹿の毛や角、アルマジロの剥製、亀の骨格標本なども展示しています。

関連の講座としては、皮膚科専門医による講演会や食事・運動・笑いなどに関する教室を計画しています。是非多くの皆様に来館していただき、身体のもつ素晴らしい働きを再発見し、自らの健康づくりにつなげていただきたいと思います。



企画展開催期間

平成23年10月29日(土)～平成24年2月19日(日)

## 行事と会議

4月14日 糖尿病予防教室 (全4回)

5月6日 決算監査 (～16日)

5月18日 監査 (監事会)

5月19日 広島市総合健康センター施設管理委員会・施設管理実務者委員会  
広島市との定例会

5月20日 評議員選定委員会

5月26日 理事会・評議員会

6月5日 第52回原子爆弾後障害研究会

6月16日 普通救命講習会 I

7月7日 広島市総合健康センター施設管理実務者委員会

- 7月12日 第4回医療安全管理研修会
- 7月16日 夏の特別展「めざせ！遊びの達人」
- 7月21日 広島市との定例会議
- 8月 3日 臨床検査センターとの二者会議
- 8月25日 防火訓練



- 8月30日 男女の人権の尊重に関する研修会①
- 9月 1日 有福温泉荘年末年始利用申込受付（～2日）  
男女の人権の尊重に関する研修会②
- 9月 8日 医療機器機種選定委員会

- 9月14日 有福温泉荘年末年始利用公開抽選会



臨床検査センターとの実務者会議

- 9月15日 広島市との定例会議
- 9月19日 広島原爆被爆者福祉センター開設50周年記念式典
- 9月30日 交通安全教育研修
- 10月20日 広島市との定例会
- 10月29日 企画展「のぞいてみよう！からだをまもる秘密」（～2月19日）

## 人事

＝平成23年5月31日付退職＝

総務課主任 池高理香

＝平成23年8月31日付退職＝

健康増進課主任 入江三枝子

＝平成23年9月30日付退職＝

検査科主任技師 佐伯優子

看護科嘱託 紫牟田知子

＝平成23年9月1日付採用＝

健康増進科副主任 岡田一彦

## 来館者

- 4月25日 施設見学受入  
(広島東南ロータリークラブ34名来所)
- 6月 6日 長崎原対協職員来所 (8名)
- 6月14日 HICARE研修受入 (韓国4名)  
在韓国被爆者医療短期研修団  
慶熙大学病院 核医学科教授  
金 徳潤 (キム・ドクユン) 他3名
- 6月22日 HICARE研修受入 (ラトビア1名)  
リガ・ストラディナ大学  
サンドラ・ジャウドゼマ
- 8月 4日 国際原子力機関 (IAEA)原子力化学・  
応用局ヒューマンヘルス部長  
レティ・チェム氏来所



- 8月 6日 日本高等学校教職員組合7名来所
- 8月22日 広島サマースクール受入(医学生28名)
- 10月13日 施設見学受入 (国泰寺高校生徒10名)